

機関番号：32707

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2009～2010

課題番号：21820061

研究課題名（和文） D. H. ロレンスの後期の小説世界の修辞法

研究課題名（英文） The Rhetoric of the Unselfconscious in D. H. Lawrence

研究代表者

中林 正身 (MASAMI NAKABAYASHI)

相模女子大学・学芸学部・准教授

研究者番号：10512915

研究成果の概要（和文）：

ロレンスの書いた『チャタレー夫人の恋人』は性をあからさまに描出している猥褻本であるという従来の考えに一石投じることができたと思われる。セックスという行為ではなく性衝動に着目しつつ、社会的存在としての人間がそれを意識的に隠蔽しようとしていることに抵抗して、「感情に衝き動かされる」という情動的体験がどのように感じられるのかをユニークな文体で描いている。「感情的になって我を忘れる」という無意識レベルでの経験こそが、人間を人間たらしめる所以なのだということを読者に訴えている小説が、この『チャタレー夫人の恋人』なのである。

研究成果の概要（英文）：

The Lady Chatterley novels (and especially version 3 of the novel) have nearly always been assumed to be about sex, but they are primarily concerned with the experiences of the body; their narratives are attempting to find ways of making actual the feelings of the body (in particular, the sexual body) in the development of the relationship between Lady Constance Chatterley and her lover, Oliver Parkin/Mellors. After Lawrence met Frieda Weekley in 1912, sexual desire became for him the ultimate bodily experience; and his concern with the way our experience of the body in the 'full conscious realisation of sex' (not in actual sexual acts) can be articulated is profound in these novels.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	590,000	177,000	767,000
2010年度	260,000	78,000	338,000
年度			
年度			
年度			
総計	850,000	255,000	1,105,000

研究分野：イギリス文学（小説の文体）

科研費の分科・細目：英米・英語圏文学

キーワード：英文学、D. H. ロレンス、小説の文体、身体知、無意識

1. 研究開始当初の背景

(1) 『チャタレー夫人の恋人』が出版されてから多くの研究者が論じているが、この小説の性描写に真っ向から挑んでいる前例がなかった。

(2) この小説は猥褻であるという従来の評価に納得できていなかった。加えて、なぜこのような評価がされたのかを追究したかった。

2. 研究の目的

- (1) 『チャタレー夫人の恋人』を猥褻な作品であるとする従来の呪縛から解放したかった。
- (2) 第3稿だけでなく第1稿と第2稿にも注目し執筆過程を分析することによって、これらの作品的意義を明らかにしたかった。

3. 研究の方法

- (1) 主に『チャタレー夫人の恋人』の3つの稿を電子ファイル化する。このことによって、各稿における文体的特徴を把握しやすくした。
- (2) 他の短篇作品についても同様の作業を行った。
- (3) 共通する場面を抽出して、単語レベルにまでこだわってそれぞれの特徴的な文体が生み出す効果を分析し考察した。

4. 研究成果

猥褻な描写を正面から研究の対象とする学者が今までにいなかったこともあり、この点においてユニークな本研究は英文で米国の出版社から出版されることになった。今後の研究において、ロレンスの身体へのこだわりがどのように言語化されているかを探るものが増えることが予想される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① 中林正身、D. H. Lawrence as Dramatic Narrator、早稲田大学『英文学』、査読有、第96号、2010、pp. 1-19。
- ② 中林正身、*Lady Chatterley's Lover* and D. H. Lawrence's Awareness of 'his contemporaries' minds'、英米文化学会『英米文化』、査読有、第40号、2010、pp. 35-55。

[学会発表] (計2件)

- ① 中林正身、『チャタレー夫人の恋人』に見られる無意識的体験のための文体、日本ロレンス協会、2009年6月27日、名古屋工業大学。
- ② 中林正身、DHL の後期のテキストに見る「感情・情動の動きの言語化」、日本ロレンス協会、2010年6月26日、早稲田大学。

[図書] (計1件)

Masami Nakabayashi, University Press of America, *The Rhetoric of the Unselfconscious in D. H. Lawrence:*

Verbalising the Non-Verbal in the Lady Chatterley Novels, 2011, 248 pages.

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中林 正身 (MASAMI NAKABAYASHI)
相模女子大学・学芸学部・准教授
研究者番号：10512915

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：